

線形代数 5.1.01 「ベクトル空間の定義」

K. Yoshitomi

大阪府立大学

2017

この動画は培風館「理工系新課程 線形代数 基礎から応用まで」[改訂版]に準拠しています。
スライドは <http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~yositomi/slide/LA2-2017/> にあります。

数ベクトル空間でできること

数ベクトル空間 $V = \mathbb{R}^n, \mathbb{C}^n$

... n 次元ベクトル全体の集合に自然な和やスカラー倍を定義したもの

i.e. $v, w \in V, c \in \mathbb{R}$ または \mathbb{C} に対して $v + w, cv$ が計算できて,

$$4(3u) + 1v = 12u + v, \quad 2(3u + 4v) = 6u + 8v,$$

$$u + (-1)u = \mathbf{0}, \quad v + \mathbf{0} = v, \quad \dots \text{etc.}$$

類似の計算ができる ‘集合’ は他にも...

数ベクトル空間の'' 類似物''

例. x の多項式全体の集合

$$f(x) + g(x), cf(x)$$

例. 関数全体の集合 $\{f : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}\}$

$$f + g : x \mapsto$$

(1)

$$, cf : x \mapsto$$

(2)

例. 実数数列全体の集合 $\{\{a_n | a_n \in \mathbb{R}\}_{n=1}^{\infty}\}$

$$\{a_n\} + \{b_n\} = \{a_n + b_n\}, 3\{a_n\} = \{3a_n\}$$

$$\{1, 3, 5, 7, \dots\} + \{2, 5, 8, 11, \dots\} =$$

(3)

$$\{1, 3, 5, 7, \dots\} + \{2, 4, 8, 16, \dots\} =$$

(4)

⋮

↪ 共通の性質を考えたい

ベクトル空間の正式な定義

\mathbb{K} ($= \mathbb{R}$ または \mathbb{C} , 体), V が \mathbb{K} 上のベクトル空間であるとは:

$V \neq \emptyset$ で各 (任意の) $x, y \in V$ と各 $c \in \mathbb{K}$ に対し

和 , スカラー倍

が定まっています,

次の性質を満たすもの: 任意の $c, d \in \mathbb{K}, x, y, z \in V$ に対し,

結合法則: $(x + y) + z = x + (y + z)$,

分配法則: $(c + d)x = cx + dx$

$\mathbf{0}$ の存在, 可換性: $x + \mathbf{0} = x = \mathbf{0} + x$, $x + y = y + x$

1 倍の性質, 逆元 (逆ベクトル) の存在:

$1x =$, x に対し, $x + y = \mathbf{0}$ となる y が存在 ($-x$ と書く)

ベクトルとは

$\mathbb{K} = \mathbb{R} \rightarrow$ 実ベクトル空間, $\mathbb{K} = \mathbb{C} \rightarrow$ 複素ベクトル空間

ベクトル空間の要素 (元) =

\mathbb{K} の要素 = スカラー

次回: 「ベクトル空間の例」